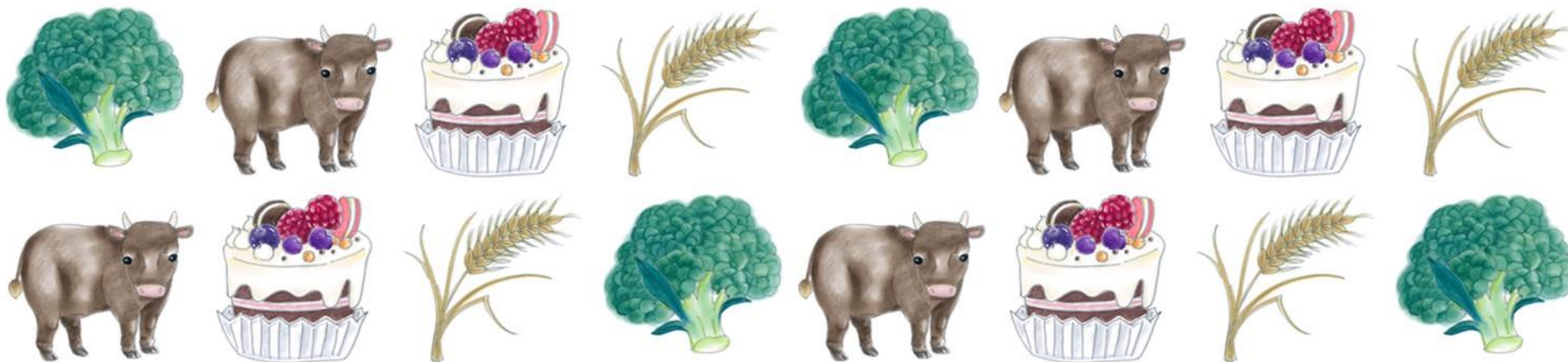


江別市長候補 岡英彦 政策集



1 人口減少社会において、私たちが考えなければいけないこと

人口減少社会において、特に地方では、積極的にチャレンジする地域と前例踏襲で何もしない地域との差はどんどん開いてくる時代になりました。新しいことをやろうという人材が次々出てくる、そのような人材が外から入ってきている地域と、そうではない地域では大きな差が出てきています。問題は人口が減ることではなくて、地域社会において、若い世代、新しいことをやろうとする人材を受け入れる環境があるか否かということではないでしょうか。

人口減少社会でも、地方に目を向けている若者、地域の中でチャレンジしたい若者というのは確実に増えてきています。地域を元気にするには、「よそ者」「若者」「ばか者」が大事であるという言葉が良く使われます。しかしながら、若者に期待すると言口でいうだけではダメで、そのような人材が挑戦できる環境を用意できるか否かが重要ではないでしょうか。

江別には4つの大学があり、多くの学生が学んでいます。最近ボランティアやまちづくりに関わる若者も増えてきています。様々な活動を通じて江別を好きになる若者も決して少なくありません。江別は若者がチャレンジできるマチになることができる大きな可能性を持っていると感じています。彼らの若い力を地域に活かすためには、単に彼らの意見を聞くということではなく、次の世代に権限なども含めて任せることができるのか、若者が失敗することも含めて許容できるかといったことを考えなくてはなりません。

江別は挑戦する人材を受け入れることができるのか、新しいことをやろうとする人材が集まるようなマチになれるのか、正に私たちの覚悟が問われているのではないのでしょうか。

1 人口減少社会において、私たちが考えなければいけないこと

- 挑戦する人を受け入れる江別でありたい
- 私たちこそが、挑戦しつづける市民でありたい
- 挑戦することで自らの力で新しい未来をつくりあげていきたい

岡英彦は江別が若い世代にとって挑戦できるまちであることを、今回の選挙で、自らの身をもって証明します。

2 江別の政策『三本の柱』

- 若い世代に選ばれるまちになろう
- 江別の食と農をもっと好きになろう
- 信頼される市役所をつくろう

現在の江別の置かれている状況では、あれもこれも望むことはできません。

何を優先するかを考えなければいけない時代になっています。

これらの中でも最優先すべきは「若い世代に選ばれるまちづくり」です。

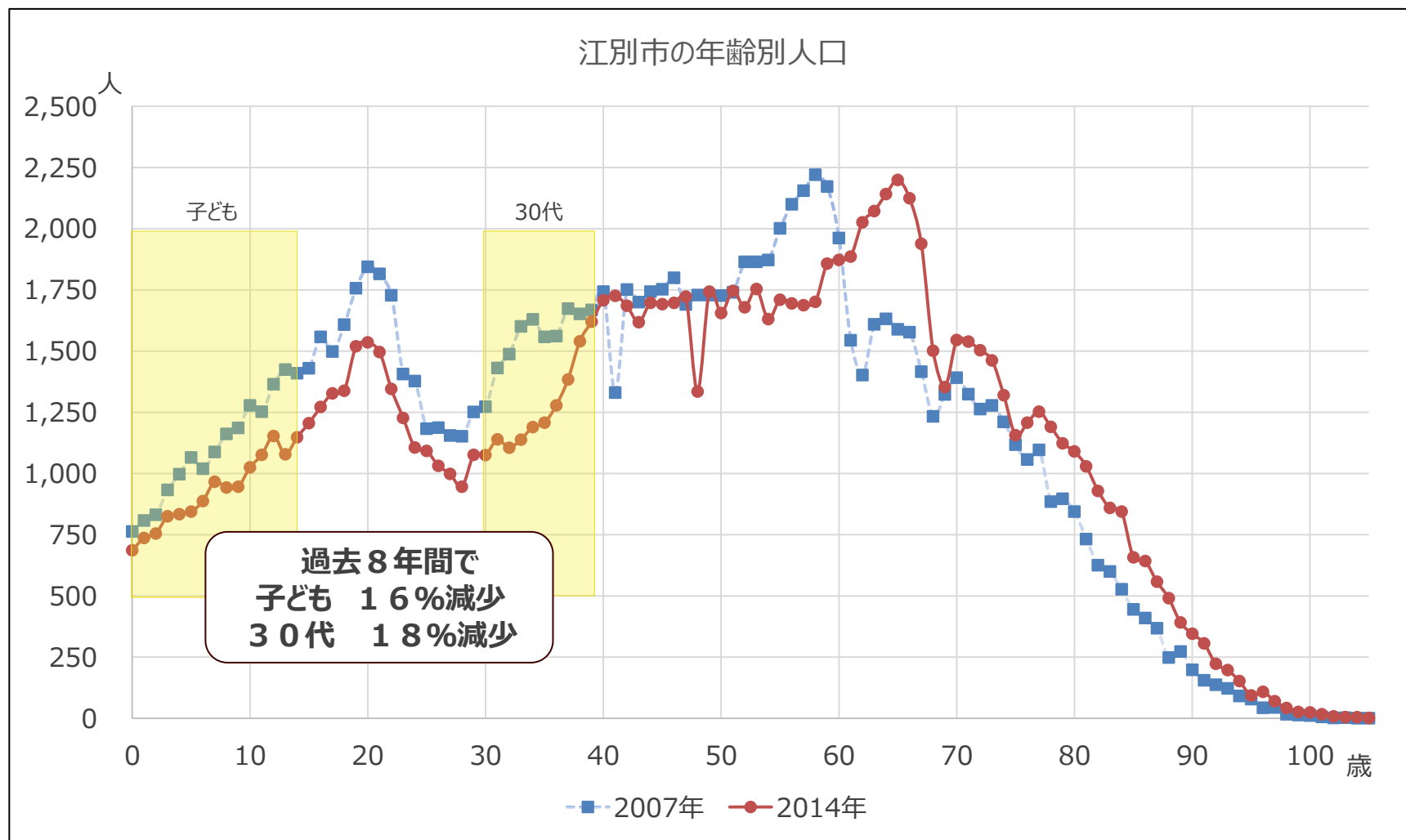
2-1 若い世代に選ばれるまちになろう



かつては人口15万人を目標にしていた江別も2005年をピークに人口減少に転じています。

2015年4月1日の集計で人口12万人を割り込み、119,640人となりました。

2-1 若い世代に選ばれるまちになろう



より本質的な問題は人口減少そのものではなく、若い世代が急激に減ってきていることです。

現在の江別は若い世代から選ばれないまちになりつつあります。

2-1 若い世代に選ばれるまちになろう

- 江別が消滅するって本当？

25年後の2040年 消滅可能性都市

江別市

札幌市厚別区・南区

北広島市

小樽市

岩見沢市

昨年、日本創生会議の出したレポートと『地方消滅』(中公新書)によると、将来的に消滅する恐れのある「消滅可能性都市」に江別も含まれています。
2040年までに若年女性が50%以上減少し消滅する可能性があると指摘されています。

2-1 若い世代に選ばれるまちになろう

具体的にどうするの？

- 子ども医療費助成を拡大します。
小学生の通院医療費を1割負担にします。
- 保育料と子育て世代の水道料金を札幌と同水準に軽減します。
- 認定子ども園、地域型保育を増やし、放課後児童クラブへの支援を拡大することで、働きたいときに必ず子どもを預けられる環境をつくれます。
- 新しいビジネスや社会起業に対して法人市民税を札幌と同水準に軽減し、新しいことにチャレンジしやすい環境をつくれます。

江別として子育て世代・若い世代の方向を向いている姿勢を強く打ち出すことが何よりも重要です。子育て世代へのPRは自治体間の競争になっており、札幌や北広島と比較する必要があります。

2-2 江別の食と農をもっと好きになろう

- 意外と地元の私たちが知らない、江別の食と農。

- 江別の農

幻の小麦 ハルユタカ

道内収穫量No1 ブロッコリー、道内作付面積No1 レタス

黒毛和牛 えぞ但馬牛、北海道酪農史の舞台

農家のかあさんの加工食品 ケチャップ、味噌、チーズなどなど

- 江別の食

江別の食品関連産業が市内の製造業に占める割合

会社数 23社 28%

従業員 1729人 50%

出荷額 355億円 40%

江別の農産物を利用した商品開発

ラーメン、うどん、豆腐、納豆、パン、ビール、日本酒、スイーツなどなど

2-2 江別の食と農をもっと好きになろう

具体的にどうするの？

- 市内各地で江別の農産物や食品を食べられる機会をつくります。
- 道の駅のような江別の食と農の魅力を発信する場所をつくります。
- 将来的には、札幌・東京へのアンテナショップ設置を目指します。
- 表彰制度（えべつアワード）をつくり、地元食材をつかった新商品開発を促します。

江別は都市でもありながら、豊かな農の環境があるまちです。

農の環境に加えて、様々な食品関連企業が集積しており、食のまちとしても特色があります。

江別の食と農は、地域の経済にとっても、江別ならではの豊かな暮らしにとっても大変重要なポイントです。

私たち市民がもっともっと江別の食と農を好きになり、地域を盛り上げていく取り組みが大切です。

2-3 信頼される市役所をつくろう

■ 本当にこれで良いのでしょうか？

市職員の**4人**に**1人**が
江別に住んでいません。

※ 2014年3月1日現在、職員816名のうち市外に居住する職員数は197名で、全体の24.4%（北海道新聞2015年2月27日朝刊）。

法律に基づき、国と道の指導のもと、
事務を行うことだけが市役所の仕事
なのではないでしょうか？

2-3 信頼される市役所をつくろう

具体的にどうするの？

- もっと江別のことを知ってもらい、江別が好きと自慢できる職員を増やします。
- 民間企業や道外自治体などとの人事交流を行い、市役所に新しい感覚を取り入れます。
- 専門性を高め、自分の頭で考えて地域のために新しい政策にチャレンジする職員を育てます。

江別を好きになり、まちづくりや地域を盛り上げる活動に積極的に取り組む職員を育てるという組織文化をつくっていかねばなりません。

3 その他の政策分野の方針

■ 除排雪

- ・降雪量、積雪量を自動的に計測できるシステムをつくります
- ・市民、除雪事業者、行政による話し合いの場を設けます

■ 教育

- ・学び合い、教え合いによる課題解決型の授業を進めます
- ・国際教育、英語教育にこれまで以上に力を入れます
- ・スクールソーシャルワーカーを増やします

■ 環境

- ・木質バイオマス、バイオマス、バイオガス、太陽光などの再生可能エネルギー施設を利用し環境教育を行います
- ・街路灯・公共施設のLED化を進めます

■ 経済活性化

- ・商業地域の土地・店舗の利用状況を把握する仕組みをつくり、空き地・空き店舗の活用を進めます
- ・グリーンツーリズムの取り組みを進めます

■ 福祉

- ・高等養護学校を誘致します
- ・食と農による障がい者就労を進めます

■ 介護

- ・地域密着型介護施設を増やしていきます
- ・高齢化に応じて地域包括支援センターを増やします

■ 医療

- ・市内での救急、産科、小児科の医療を守ります
- ・診療報酬改定にあわせ市立病院での地域包括ケア病棟を検討

■ 生活困窮者支援

- ・生活困窮者への支援担当を設けます
- ・生活困窮者自立支援制度の任意事業の実施します

■ 防災

- ・災害時の情報伝達手段としてコミュニティFMをつくります
- ・断水や停電など大規模インフラ災害を想定した防災訓練の実施

3 その他の政策分野の方針

■ 駅周辺地区活性化

- ・高層住宅の建築を促し居住人口を増やすように誘導します
- ・駅から徒歩圏内の住宅地の空き家をデータベース化し、
住み替えを進めます
- ・既存事業の効果の再検証を実施します

■ アートによるまちづくり

- ・セラミックアートセンター館長にアートによるまちづくりを推進できる
人材を招きます
- ・アートによるまちづくりにより交流人口を拡大します

■ 学生によるまちづくり

- ・学生向けの支援事業の使い勝手を良くします
- ・学生が企画から関わる政策を実施します
- ・全国の学生が集まる江別サマースクールを実現します

■ 市民自治

- ・自治会加入を促進します
- ・新たな寄付制度を設け市民活動を盛り上げます
- ・討議の手法を取り入れた市民参加を進めます

■ シティプロモーション

- ・外部よりマーケティングの経験のある人材を招きます
- ・次の世代を呼び込むためのシティプロモーションに力をいれます

■ 行政改革

- ・外部からアドバイザーを招きます
- ・根拠に基づいた政策（エビデンスベースドポリシー）の導入
- ・新公共ガバナンス（ニューパブリックガバナンス）の導入

■ 政策予算の確保の手法

- ・若い世代、子育て世代を呼び込むことを最優先政策として
予算づけを行います。
- ・『3本の柱』で示した優先政策への予算確保は、投資事業の
平準化、各政策分野における事業の優先順位づけの実施、
子育て以外の負担増を組み合わせることで実現します。

4 信頼できる政治をつくろう

私たち自身が自らの手で作りあげていると実感できる社会を目指そう。

私たちを取り巻く社会の仕組みや制度というものは、TVの中の政治家や、国の官僚や役人が決めているのではなく、私たち自身がつくっているのだということを感じられる社会ということです。

このような社会を築いていくためには、政治家が本当の意味で私たちの代表であると感じられ信頼できることが重要であり、行政が私たちの選んだ方針に基づいて行われていると実感できることが大切です。

残念ながら、我が国においては、政治と行政への信頼は非常に低いのが現状であり、私たち自身で作っていると感じることができる社会を作りあげていくことは道半ばだと考えています。

一番身近であるはずの市の政治や行政についても、決して市民からの信頼が高いとは言えない状況ではないでしょうか。

市政においても、私たちの声が反映されているという実感を持てるようになることが大切です。

徹底した情報公開による透明性の確保、一方通行ではない双方向のコミュニケーション、行政への市民参加などを幅広く進めることが必要とされています。

また、私たち自身もお任せの民主主義から脱却し一人一人が政治に参画していく必要があります。

日本は民主主義の国です。民主主義の国では、政治は私たち一人一人がつくりあげているものであり、社会は自分達自身で作っていると感じることができるものにすることができると信じています。

5 岡英彦 これまでの活動実績

- 8年間で28回の一般質問を行いました。
- 一般質問で取り上げた主な内容（審議会等の市政情報の共有、学校耐震化とレンガ校舎の建替え、将来人口予測・人口移動、寄付制度を利用した市民活動支援、投票率の向上、食と農のまちづくり、シティプロモーション、職員の市内居住、国際教育など）
- 議会改革について提案した内容（一問一答制度の導入、請願陳情者の陳述機会の確保、自由討議の実施、委員会議事録の公開、インターネット中継、議会報告会、議案の賛否の公開、議会に関するアンケート調査の実施など）
- 年4回「岡英彦の市議会レポート」を配信
- インターネットTVで江別の市政情報を届けるガバナンス江別に出演
- 学生・若者向けに政治を身近に感じてもらうための講演を毎年実施
- 議員インターンシップとしてこれまで30人を越える学生を受入
- 2011年以降、毎年、東日本大震災の被災地へのボランティア活動又は視察を実施
- 報酬明細を公開し、公費による収入や政治活動にかかる費用を透明化
- 全国若手市議会議員の会・会長経験者として全国の400人を越える若手議員や青年市長とのネットワークを持つ
- 江別のご当地キャラクタープロジェクトの仕掛け人の一人

6 岡英彦プロフィール

1972年、生まれ（42歳）。江別市出身。

あけぼの幼稚園、大麻泉小学校に通い、11歳まで大麻栄町に暮らす。

札幌南高校卒業

茨城大学大学院理工学研究科修了（理学修士、宇宙物質学・天文学）

大学院終了後、東京のIT企業に就職しシステムエンジニアとして約9年間働く

2006年、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了（公共政策学修士、地方自治・公共経営）

2006年、国会議員の立法スタッフ資格である政策秘書資格試験に合格

2006年、生まれ育った北海道・江別のために貢献したいとの思いから安定した生活をなげうって帰郷

2007年、江別市議会議員選挙にて初当選

2011年、江別市議会議員選挙にて過去最多得票で再選

2011年、新会派「改革江別無所属の会」を設立

2011-2012年度、全国若手市議会議員の会北海道ブロック・会長

2013-2014年度、全国若手市議会議員の会・会長

No Challenge
No Future

～挑戦なくして未来なし～